特定非営利活動法人
日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス

2014年度　活動報告書

〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-21-12-103
電話：03-5937-4040　　FAX：03-5937-4043
WEB ： http://www.janpplus.jp　　E-mail ： info@janpplus.jp

も　く　じ

JaNP+の活動目的とミッション　・・・・・・・・　3

HIV 陽性者スピーカー派遣　・・・・・・・・　5

HIV 陽性者交流会　・・・・・・・・　9

Talking about SEX　・・・・・・・・　10

研修　・・・・・・・・　11

調査・研究　・・・・・・・・　15

日本エイズ学会参加支援スカラシップ　・・・・・・・・　17

国際ネットワーク　・・・・・・・・　20

メディア対応　・・・・・・・・　21

アドボカシー　・・・・・・・・　22

広報・事務局ほか　・・・・・・・・　23

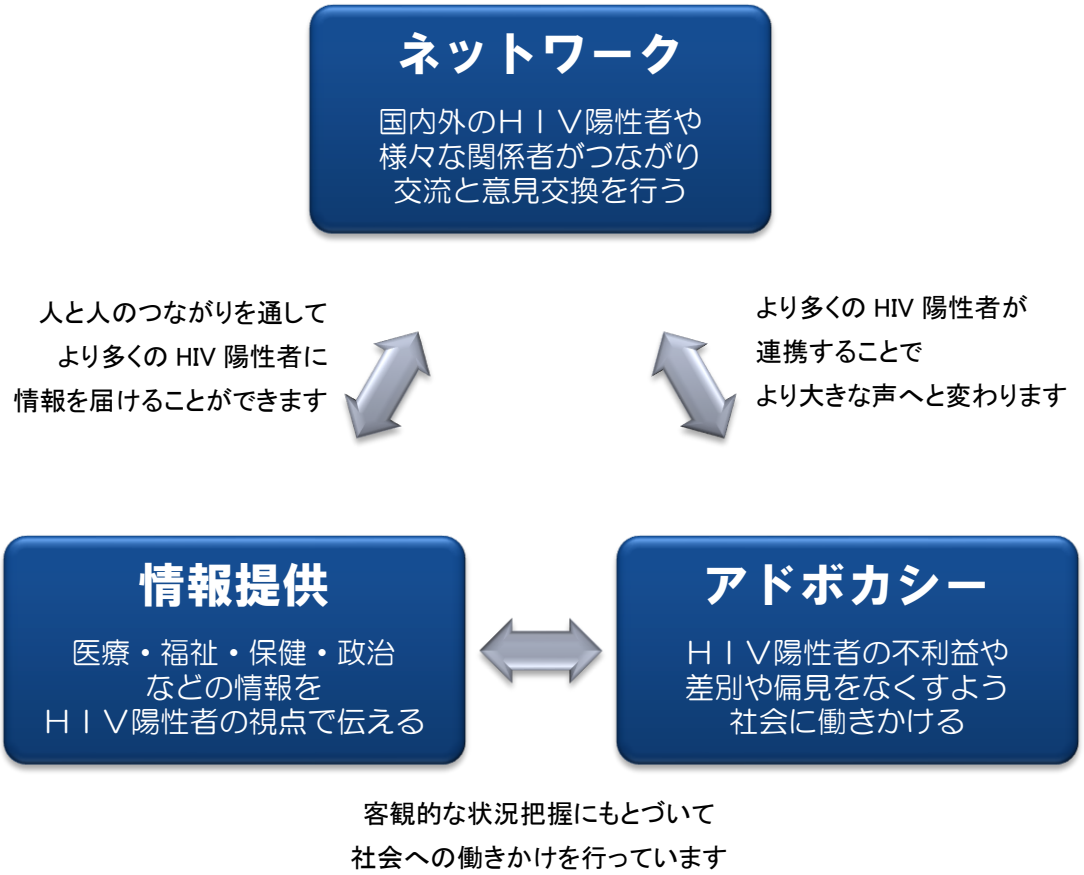
寄付・助成　・・・・・・・・　24

活動目的とミッション

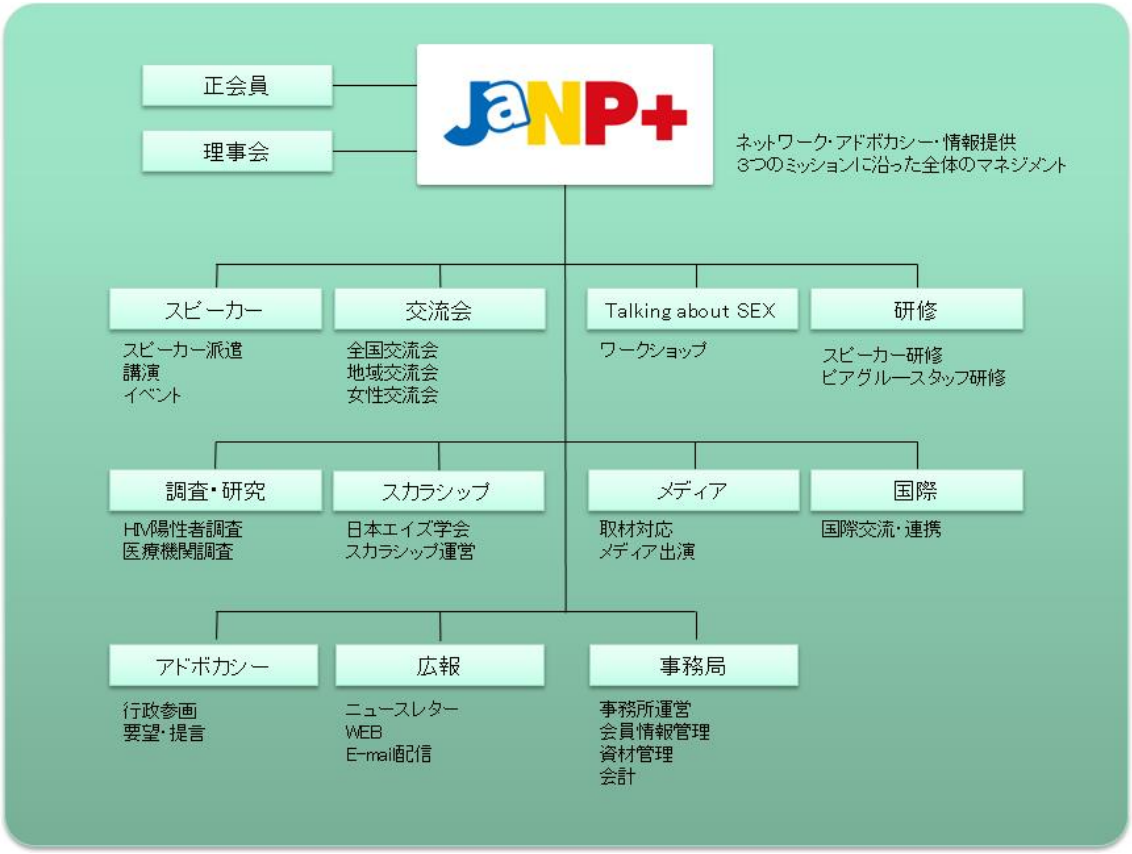
JaNP＋の活動目的

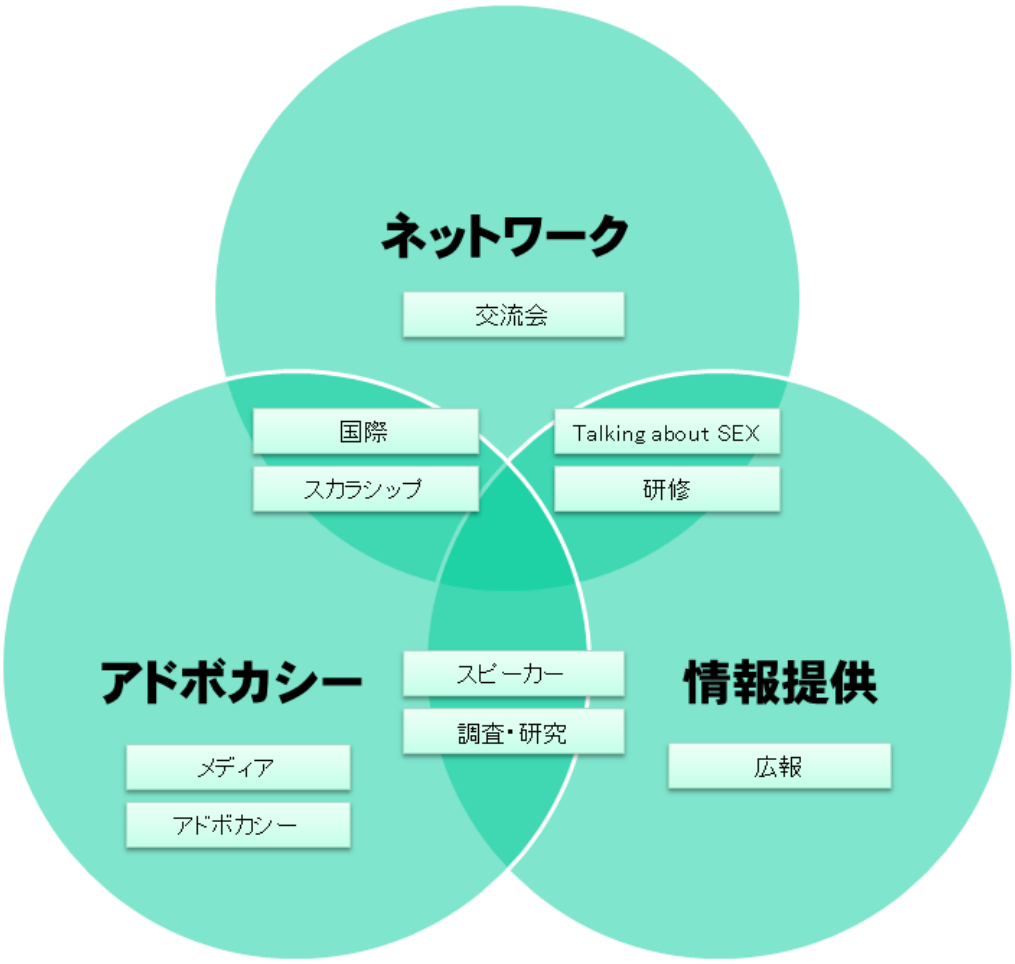
HIV陽性者が秘密を抱えることもなく、社会的な不利益を受けることもなく、
HIV陽性者として、自立したあたりまえの生活ができる社会を目指します。

JaNP＋の3つのミッション



各プロジェクトとミッションの位置づけ





HIV陽性者スピーカー派遣

HIV・エイズに対するイメージから、HIV 陽性者が自分の感染の事実を周囲の人に伝えることには困難が伴います。その一方で、HIV 陽性者が「顔のある一人の生活者」として認知される機会がなければ、HIV は多くの人にとって「他人事」のままであり、その結果としてイメージのギャップから生まれる差別や偏見は、いつまでも解消されない、そんな悪循環が続いてしまうでしょう。

多くの HIV 陽性者が、自分のできる範囲で身近な人たちに HIV 陽性であることを伝えています。それによって、伝えられた人は初めて HIV を「身近な問題」として認識しています。それと同時に、HIV 陽性者がいきいきと自分らしく暮らしている姿そのものが、こうした悪循環を断ち切る１つの力にもなっているのです。

こうした小さなカミングアウトを大きくネットワークすることで、リアリティを広げていく取り組みが、HIV 陽性者スピーカー派遣です。自身が HIV 陽性者であることをオープンにできる人は決して多くありませんが、JaNP+のスピーカーは、テレビや新聞などのメディアだけでなく、講演会や研修、少人数の集まりなど全国各地の様々な機会に、「等身大」の語りを提供していいます。

派遣実績

2014 年度は、計 36 件の派遣依頼に応じ、8 名の HIV 陽性者スピーカーが担当しました。

＜聴講者の述べ人数＞

2,573 名　（メディアは除く）

＜依頼主の属性＞　（件）

NGO、NPO	15
医療機関	4
企業	1
教育機関	7
行政	5
メディア	4

＜地域＞　（件）

宮城	1
群馬	1
栃木	1
埼玉	2
東京	15
神奈川	2
静岡	2
愛知	1
京都	1
大阪	4
福岡	1
沖縄	1
（メディア）	4

＜聴講者の属性＞　（件／重複あり）

医療職	11
保健所職員	11
心理職	9
行政職員	12
NGO、NPO	13
学生	15
教員	9
HIV 陽性者	7
一般市民、その他	22

＜派遣実績詳細＞

日付	依頼主体	催事名
5 月 24 日	日本国際保健医療学会	第 29 回日本国際保健医療学会　東日本地方会
6 月 6 日	神奈川県立保健福祉大学	授業「医療福祉論」
6 月 16 日	大阪医療センター	平成２６年度　ＨＩＶ/ＡＩＤＳ看護師研修　初心者コース
6 月 20 日	公益財団法人エイズ予防財団	平成 26 年度 HIV/エイズ基礎研修会
6 月 26 日	特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会	ＪＩＣＡ青年海外協力隊　エイズ対策集合研修
7 月 29 日	国立保健医療科学院	平成 26 年度エイズ対策研修
8 月 1 日	AIDS 文化フォーラム in 横浜	AIDS 文化フォーラム in 横浜
8 月 23 日	WE ARE HERE　いま語られるエイズの記憶	厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「個別施策層のインターネットによるモニタリング調査と教育・検査・臨床現場における予防・支援に関する研究」
9 月 7 日	nankr 沖縄	nankr college
9 月 8 日	大阪医療センター	平成２６年度　ＨＩＶ/ＡＩＤＳ看護師研修　初心者コース
9 月 25 日	特定非営利活動法人シェア＝国際保健協力市民の会	ＪＩＣＡ青年海外協力隊　エイズ対策集合研修
10 月 3 日	法務省、公益財団法人人権教育啓発推進センター	人権啓発指導者養成研修会
10 月 4 日	AIDS 文化フォーラム in 京都	AIDS 文化フォーラム in 京都
10 月 8 日	テレビ朝日	TV 番組「ビートたけしの TV タックル」取材・出演
11 月 5 日	東京新聞	「東京新聞」記事取材
11 月 14 日	静岡県立藤枝特別支援学校焼津分校	保健学習「HIV 陽性者当事者のお話をきこう」
11 月 16 日	公益財団法人エイズ予防財団	エイズ中核拠点病院相談員研修会
11 月 18 日	群馬県立中之条高等学校	エイズ講演会

11 月 25 日	東京都	Words of love ～Let’s talk about HIV/AIDS～
11 月 28 日	創価大学「看護学部生による八王子健康プロジェクト」	ＨＩＶおよび性感染症を学ぶ会「”その知識、マジ！？” ＨＩＶ・性感染症のリアルな話」
11 月 28 日	インタビューブログ『たまちゃんがゆく！』（株式会社オークハウス）	インタビューブログ『たまちゃんがゆく！』
11 月 30 日	とちぎ思春期研究会	全国同時ピア in とちぎ：エイズデーキャンペーン
11 月 30 日	明治大学　横田ゼミナール Human Library	Human Lirary
12 月 8 日	ヴィーブヘルスケア株式会社	世界エイズデー社内講演会
12 月 13 日	JaNP+	スピーカー研修
12 月 18 日	(一社）埼玉県歯科医師会	特別なケアが必要な方の歯科保健医療推進研修会:HIV エイズ患者への対応について
12 月 19 日	NPO 法人 akta	デリバリーボーイズ　ボランティア研修会
12 月 20 日	やろっこ	HIV 陽性者と話そう
12 月 27 日	一般社団法人ブリッジハートセンター東海	HIV/AIDS 支援に関するサポーター養成講座
1 月 20 日	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構　東京障害者職業センター	雇用管理サポート講習会
1 月 20 日	公益財団法人人権教育啓発推進センター	月間「アイユ」記事取材
2 月 14 日	関西 HIV 臨床カンファレンス	第 51 回カンファレンス
2 月 17 日	福岡県教育委員会	平成２６年度第３回福岡県人権教育研修会
2 月 26 日	特定非営利活動法人　シェア＝国際保健協力市民の会	ＪＩＣＡ青年海外協力隊　エイズ対策集合研修
3 月 5 日	JICA 九州	平成 26 年度「HIV/エイズ予防および対策～MDG6 達成にむけて～」
4 月 17 日	ピーター・ピオット出版記念セミナー	ピーター・ピオット氏出版記念

今後に向けて

派遣機会の拡大のために、今後も HIV 陽性者スピーカー派遣活動に関する各方面への広報により一層努めたいと思います。2014 年度はスピーカー派遣の案内チラシや、WEB サ

イトにおけるスピーカー紹介を予定していましたが、予算・人員の不足により実施できませんでしたので、これらの取り組みに着手します。

ピーター・ピオット氏出版記念セミナーの模様

HIV陽性者交流会

JaNP+の活動の基盤となるのは、HIV 陽性者のネットワークづくりです。しかし、HIV 陽性であることをオープンにしづらい日常の中で、他の陽性者と知り合うことは難しいものです。そのため JaNP+では継続的に HIV 陽性者の交流の場を提供しています。

＜開催実績＞

日付	催事名	開催地域	参加者数※
5 月 10 日	ジャンプ！交流会	東京	8 名
6 月 22 日	懇親会（JaNP+活動報告会終了後）	東京	55 名
8 月 9 日	ジャンプ！交流会	東京	12 名
9 月 13 日	ジャンプ！交流会	東京	11 名
10 月 11 日	ジャンプ！交流会	東京	7 名
10 月 25 日	JaNP+女子会	東京	8 名
11 月 22 日	ジャンプ！交流会	東京	10 名
12 月 3 日	全国 HIV 陽性者交流会	大阪	33 名
1 月 10 日	ジャンプ！交流会	東京	8 名
3 月 15 日	ジャンプ！交流会	東京	9 名

※参加者数はスタッフを含む

- HIV 陽性者交流会　　HIV 陽性者限定の交流会
  性別・セクシャリティ・感染経路を問わない
- JaNP+女子会　　HIV 陽性の女性限定の交流会
- ジャンプ！交流会　　HIV 陽性者および JaNP+の各種会員による交流会

2015 年度も、都内では、ジャンプ！交流会や JaNP+女子会を通じて、予算やスタッフの負担が少ない方法で、継続的な交流の場を提供していきたいと考えています。

また、これまに培ってきた全国の HIV 陽性者のグループ・個人とのネットワークを活かし、全国各地での HIV 陽性者の交流会等の開催を支援していく予定です。

Talking about SEX

HIV に感染しても、多くの場合は治療によって健康をコントロールし、ウイルスも抑えることができます。また、多くの HIV 陽性者は、感染を予防する方法も知っています。

それでも、HIV 感染という経験によって「セックスや恋愛にどう向き合っていいのかわからない…」という思いを抱いている人は、少なくありません。パートナーシップを築きたいと思える相手とめぐりあったときにも、HIV は大きなハードルになっています。

本来、HIV 陽性であるかどうかに関係なく、人間にとってセックスは生き方にもかかわる大切な問題です。しかし、セックスに正面から向き合って考える機会は、日常生活の中では見つけにくいもの事実です。

このため JaNP+では、HIV 陽性者の立場からセックスについて考えるプログラム「Talking about SEX」を展開しています。

＜開催実績＞

日付	開催地域	参加者数
7 月 18 日	東京（試行）	7 名
2 月 28 日	東京	6 名
3 月 8 日	沖縄	11 名
3 月 28 日	福岡	6 名

プログラム

- 歓迎・趣旨説明、グランドルール
- 連想ゲーム
- 自己紹介
- セックスのメリットとデメリット
- どこまで知ってる？性感染症の知識テスト
- データでわかる！ぼくらのセックス事情
- フリートーク、振り返り
- クロージング、アンケート記入

※参加者数はスタッフを除く

前年度まで、ゲイ・バイセクシャル男性の HIV 陽性者を対象に実施してきたプログラムを、今年度から HIV ステータスに関わらずゲイ・バイセクシャル男性なら誰でも参加できるようリニューアルしました。ゲイ・バイセクシャル男性の参加を促すため、東京では NPO 法人 akta、沖縄では nankr おきなわ、福岡では Love Act Fukuoka と共催しました。なお、このプログラムは公益財団法人エイズ予防財団の助成を受けて実施しました。

今後も継続的に提供できるよう、引き続き他団体との共催によって実施していくことを検討しています。

研修

JaNP+はその名称のとおり、地域を限定せず日本全国を対象に活動したいと考えています。しかし、日々暮らしている地域において「HIV 陽性者が HIV 陽性者として活動する」ということには、様々なハードルがあります。また、大都市圏以外ではセルフヘルプ活動を行うピアグループが存在しないために、実際の活動に触れたり学んだりする機会がありません。

このため JaNP+では、HIV 陽性者によるセルフヘルプ活動のために必要なノウハウや知識を提供するための独自の研修プログラムを提供しています。

ピアグループスタッフ研修

「他の HIV 陽性者との交流を通じて救われた」という経験のある人は少なくありません。そうした経験から、自身もまた交流の場を提供しよう思う当事者が JaNP+のネットワークにつながっています。そうした人たちに、ピアグループの立ち上げやスタッフとしての参加に必要となる準備性を確保してもらうため、ピアグループスタッフ研修のプログラムを開発し、2012 年度よりスタートしました。

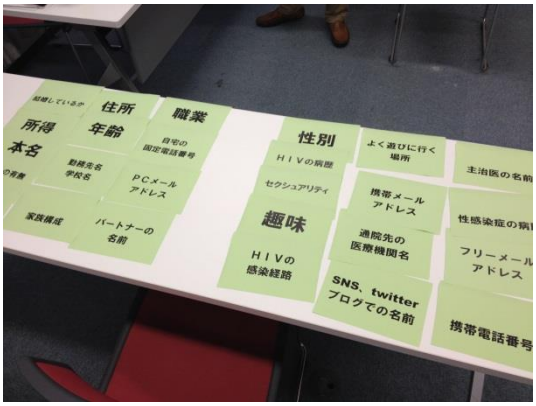
3 回目となる 2014 年度の研修では、10 名の HIV 陽性者からの応募があり、8 名が受講しました。

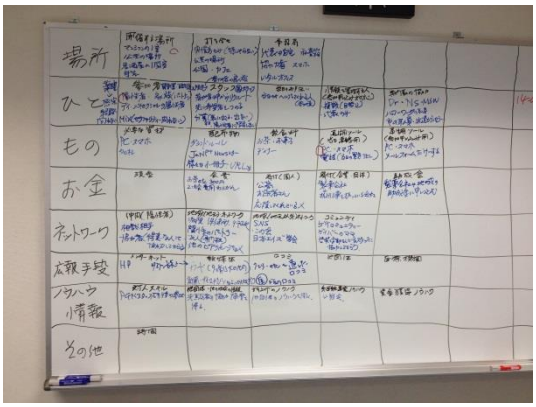
なお、このプログラムは「アステラス・スターライトパートナー」の助成を受けて実施しました。

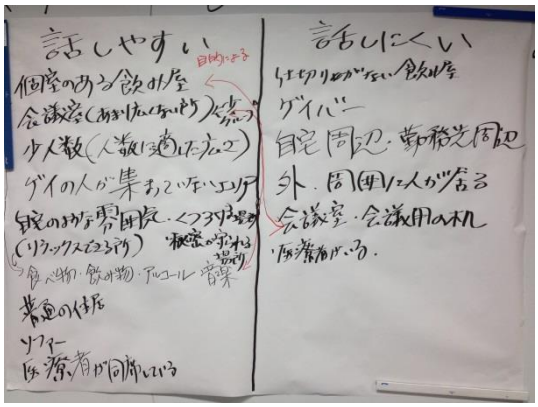
＜開催概要＞

日時	2014 年 11 月 1 日（土）～11 月 2 日（日）
場所	東京都内
参加要件	・ HIV 陽性告知を受けてから 1 年以上が経過していること。 ・ 「ピア・グループを立ち上げたい」「スタッフとして参加したい」という ・ 強い思いがあること。または、すでにスタッフとして参加していること。 ・ 医療機関に定期的に通院していて、自分の健康状態を把握していること。 ・ 他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。 ・ 研修後に所定のレポートを提出すること。 ・ この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。 ・ 研修所定のグランドルールを遵守すること。
プログラム	1 日目 ・ グランドルール ・ 自己紹介

	・　プライバシーについて
	・　いろいろな人数で話す
	・　場所について考える
	・　参加者の動機（ニーズ）を考える
２日目	・　ピアグループ活動の経験を共有する
	・　自分たちが持っているもの（シーズ）を整理する
	・　「こんな時はどうする？」　～対応例の検討～
	・　振り返り、レポート記入







ピアグループスタッフ研修の様子

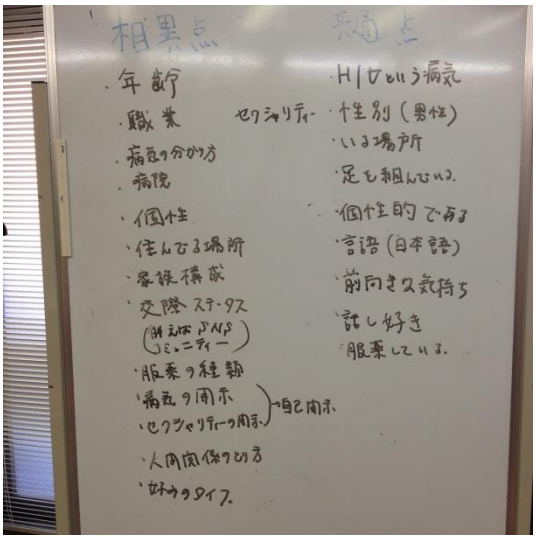
HIV陽性者スピーカー研修

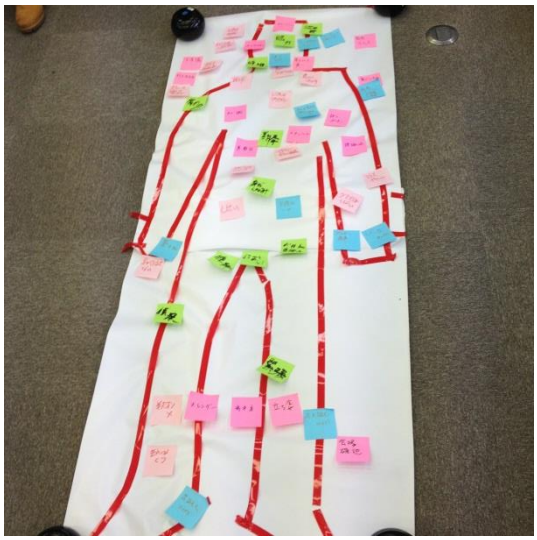
HIV 陽性者が当事者としての視点で社会に等身大の語りを提供するスピーカー活動を行う上で、必要 0 なスキルや心構え、当事者における多様性等を学ぶための研修です。

2005 年にスタートして 10 回目の開催となった今回は、12 名の HIV 陽性者からの応募があり、7 名が受講しました。

＜開催概要＞

日時	2014 年 12 月 13 日（土）～12 月 14 日（日）	
場所	東京都内	
参加要件	・	HIV 陽性告知を受けてから 1 年以上が経過していること。
	・	今後、HIV 陽性者スピーカーとして活動したいという意欲があること。（すでに活動を行ったことのある方も参加可能です）
	・	医療機関に定期的に通院していて、自分の健康状態を把握していること。
	・	他の陽性者や当事者団体・支援団体とつながりを持っていること。
	・	研修後に所定のレポートを提出すること。
	・	この研修会のすべてのスケジュールに参加できること。
	・	研修所定のグランドルールを遵守すること。
プログラム	1 日目	・ グランドルールの説明
		・ アイスブレーク
		・ 自己紹介
		・ 共通点と相違点
		・ 動機についてのワーク
		・ 依頼主と参加者について考える
		・ 傾聴と質疑応答
	2 日目	・ スピーカーの要素
		・ 自己開示について
		・ 話の組み立て
		・ スピーカー環境をイメージする
		・ ショート・スピーチ
		・ 振り返り、アンケート記入、レポート配布





スピーカー研修の様子

今後も、HIV 陽性者としてスピーカーやピアグループ活動を行う人々をサポートできるよう、研修プログラムを提供していきます。

調査・研究

活動の裏付けとなる当事者の声を客観的に把握するためには、説得力と客観性を得るための調査・研究も必要です。これまで JaNP+では、独自の調査のほか、研究者や企業が行う調査・研究への協力を行っています。

調査プロジェクト「Futures Japan」への協力

JaNP+では、HIV 陽性者の「自分らしくより健康的な生活の実現」と「暮らしやすい社会環境づくり」を目的とした当事者参加型のプロジェクト「HIV Futures Japan プロジェクト」に賛同、協力しています。

このプロジェクトには、全国から 19 名の HIV 陽性者が参加する「レファレンスグループ」が設置されています。JaNP+は、これまでの活動によって培ったネットワークをもとに、前年度に続きレファレンスグループの運営を担当しました。

2014 年度は、おもに 913 名の HIV 陽性者（有効回答分・国内在住者のみ）の WEB アンケート調査の結果をもとに、レファレンスグループと研究者らが会議やメールでディスカッションを重ねました。なお、調査結果は下記の WEB 調査サイトにて公開されています。

2015 年度、JaNP+ではこれらの調査結果や分析、全国の陽性者らの意見をもとに、日本のエイズ対策に関する当事者の視点からの要望や提言をまとめる予定です。

http://survey.futures-japan.jp/

http://futures-japan.jp/

調査・研究協力

上記の他、JaNP+は以下の研究に協力しました。

- 平成 25 年度厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「HIV 感染症及びその合併症の課題を克服する研究」（研究代表者：白阪琢磨）
- 平成 26 年度厚生労働科学研究エイズ対策研究事業「リプロダクティブケア領域の HIV 対策、感染妊婦、防止教育の包括的支援戦略」（研究代表者：佐山光子）
- 薬剤に関するグループインタビュー（委託元：非公開）

学会での発表・登壇

第 29 回日本エイズ学会（2014 年 12 月 3 日～5 日）において、以下のとおり発表または登壇しました。

＜第 29 回日本国際保健医療学会　東日本地方会＞

テーマ	シンポジウム マイノリティーと健康　―いのちの格差をどう縮めていくか―
演題名	「エイズと向き合うコミュニティと私たち」
演者	羽鳥潤

＜第 27 回日本エイズ学会＞

分類	公開シンポジウム
演題名	「薬害エイズ事件の教訓から　いま振り返る　HIV の医療と福祉」
演者	高久陽介（座長）
分類	シンポジウム
演題名	HIV 検査の体制―早期検査と早期治療に向けて
演者	高久陽介（座長）
分類	一般演題（口演）
演題名	HIV マップ　―「HIV お役立ちナビ」の改訂に関する考察―」
演者	矢島嵩
分類	一般演題（口演）
演題名	エイズ予防指針に基づく国・地方公共団体・医療関係者・NGO の連携に関する意識調査（１）　～地方公共団体アンケートから～
演者	高久陽介
分類	一般演題（口演）
演題名	エイズ予防指針に基づく国・地方公共団体・医療関係者・NGO の連携に関する意識調査（２）　～エイズ治療拠点病院アンケートから～
演者	高久陽介

日本エイズ学会参加支援スカラシップ

HIV の医療には、患者が自ら積極的に参加する先駆的治療の実現が求められます。しかし、学会で示される新たな知見や様々な意見に、HIV 陽性者が触れるきっかけは少ないのが実情です。

JaNP+は他団体との協働により、HIV 陽性者の治療意欲向上と自立ならびに社会参加の促進を趣旨とする「HIV 陽性者参加支援スカラシップ委員会」を設立し、HIV 陽性者の学会参加を支援するスカラシップ（学会参加費補助）を行うことで、全国の HIV 陽性者が学会に参加する際の経済的・地理的・心理的ハードルを下げることで、エイズ対策への当事者の参加を促しています。

地域を越えて当事者と専門家との交流と意見交換を促すとともに、当事者の側から視点や熱望を伝え、また当事者自身も HIV 感染症に関する知見をさらに深め、それぞれの地域での社会活動にも還元されています。

＜スカラシップ委員会の構成団体＞

社会福祉法人はばたき福祉事業団、特定非営利活動法人ぷれいす東京、JaNP+

第28回日本エイズ学会へのHIV陽性者参加支援

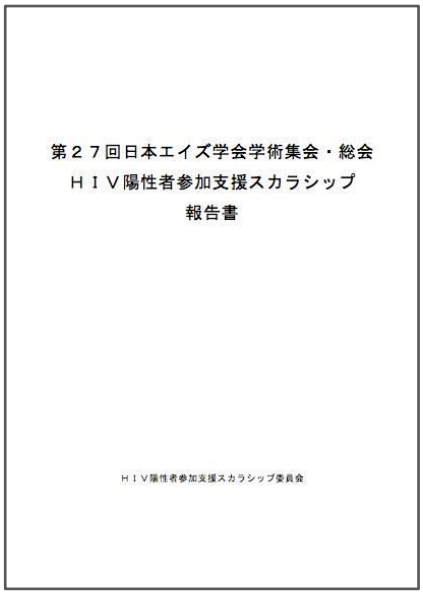
目的	全国の HIV 陽性者 50 名程度（予定）の学術集会参加登録費および交通費・宿泊費（近距離除く）を一部負担し、陽性者の学会参加を促進する。
応募資格	・ HIV 陽性者であること ・ 第 28 回日本エイズ学会学術集会において開催されるシンポジウム、セミナー、演題等の 2 つ以上のプログラム（うち 1 つは、12 月 4 日（木）10:40～12:10 開催の公開シンポジウム「薬害エイズ事件の教訓から　いま振り返る HIV の医療と福祉」）に参加可能であること ・ 他から交通費・宿泊費などの助成を受けていないこと ・ 学術集会終了後、2014 年 12 月 20 日までに参加した各プログラムに関するレポート（計 2 点）を書いて提出すること
スカラシップ 支給額	応募動機等についてスカラシップ委員会で審査の上、在住地域により以下の金額を支給する。 ・ 近畿地方在住者　10,000 円 ・ 関東・北陸・中部・中国・四国・九州地方在住者　30,000 円 ・ 北海道・東北地方在住者　50,000 円

応募者数	52 名
支給者数	36 名
支給総額	1,020,000 円 ※　第 28 回日本エイズ学会会長・塩田達雄氏のご厚意により、スカラシップ受給者に学会参加登録証 36 枚を無償でご提供いただきました。このため、上記金額には一名あたり 10,000 円相当の現物支給が含まれます。
後援	厚生労働省　日本エイズ学会　日本製薬工業協会　（順不同）

参加報告書の発行

このスカラシップを通じて第 28 回日本エイズ学会に参加した HIV 陽性者によるレポートをまとめ、報告書 1,000 部を発行しました。報告書は、エイズ治療拠点病院、各都道府県および中核市、エイズ NGO 等に送付しました。また、報告書はスカラシップ委員会の WEB 上でも公開しています。
URL：http://www.janpplus.jp/project/scholarship/

学会で発表された様々な発表や取り組みに対して、HIV 陽性者が感じたリアルな意見を知ることができる内容になっています。


第２７回日本エイズ学会学術集会・総会
ＨＩＶ陽性者参加支援スカラシップ
報告書

ＨＩＶ陽性者参加支援スカラシップ委員会

公開イベント「HIV陽性者による第28回日本エイズ学会　参加報告会」 開催

学会に参加した HIV 陽性者の声をよりリアルに声を伝える場として、参加報告会を開催しました。実際に学会に参加した陽性者 2 名から、それぞれ学会参加を通じての感想や意見を発表しました。

HIV 陽性者の来場が多く、学会に参加できなかった人、学会での発表内容に関心がある人、翌年のスカラシップ申込を検討している人、自身も学会に参加して他の陽性者がどう感じたのかを聞きたかった人などが多かったようです。

＜開催概要＞

開催日時	2015 年 2 月 15 日（日）　18:30～20:00
場所	新宿区立新宿文化センター　第 1 会議室（新宿区新宿 6-14-1）
主催	HIV 陽性者参加支援スカラシップ委員会
内容	・　第 28 回日本エイズ学会参加支援スカラシップ　実施報告 高久陽介（JaNP+） ・　学会参加者による報告　～HIV 陽性者から見た日本エイズ学会～ スカラシップ受給者 2 名 ・　当事者による学会への参加の意義 生島嗣（ぷれいす東京）
来場者数	23　（出演者・スタッフ除く）

国際ネットワーク活動

エイズはマラリア、結核と並んで世界三大感染症と呼ばれ、「HIV 陽性者があたりまえに生きることのできる社会」の実現は、日本だけでなく世界の HIV 陽性者にも共通する目的です。

世界的な不況が長引く中、日本のみならず諸外国においてもエイズ対策への資金提供や予算確保は厳しい状況にありますが、こうしたときこそ国と言う枠組みを超えた密接な協力体制を築く必要があります。

この観点から JaNP+では国外の HIV 陽性者や関連団体とのネットワークを重視し、国際会議等への参画も積極的に行っています。

国際会議への参加

2014 年 6 月 25 日～28 日、APN+（アジア太平洋地域の HIV 陽性者ネットワーク組織）の会議がタイのバンコクで開催され、日本代表として高久が参加しました。

会議では APN+総会（活動報告、決算、役員選任等）が行われた他、各国での課題と当事者の立場からの取り組みについての情報共有や意見交換、国際機関へのアドボカシーに関する活発な討議等が行われました。

主要国におけるHIV陽性者の入国規制に関する情報提供

HIV 陽性者が抱えている不安の一つに、海外への渡航に際する入国の可否があります。そこで、英語で提供されているウェブサイト“HIV Travel”の情報をもとに、日本と往来の多い主要な国々について和訳し、リストとしてウェブサイトにアップしています。

残念ながら、国によっては法律上の規制と運用の実態が異なる場合もあり、このリストのみをもって入国できるかどうかを判断しにくいこともありますが、少なくとも当事者が渡航を判断する際の参考になるよう、情報提供をしています。また、HIV に対する差別や偏見の現状を知って頂くきっかけにもなるでしょう。

年に数件ですが、HIV 陽性者や医療機関から、こうした入国規制に関するご相談が寄せられています。

メディア対応

活動の性格上、JaNP+にはテレビ、新聞、雑誌など様々なメディアからの取材依頼があります。しかし、これまでに行われてきた HIV・エイズに関する報道は、HIV・エイズおよび HIV 陽性者に対する差別や偏見と密接に関わっており、それらは良くも悪くも現在の私たちに大きな影響を及ぼしてきました。

近年では、エイズ・パニックの時代と比べて HIV・エイズに関する報道自体が少なくなっています。マスメディアを通じて大げさに取り上げることが、当事者である私たちにとって必ずしも有益であるとは考えていませんが、マスメディアの影響力は、他の活動が届かない人々にも語りかける機会として無視できないものです。また、取り組み方によっては、私たちのミッションである「HIV 陽性者があたりまえに生きられる社会の実現」にも寄与できると考えています。

このため JaNP+では、これまでの活動を通じた経験を活かしながら、機会をとらえて様々なメディアからの取材依頼に対応しています。

メディア出演・取材実績

今年度は、以下の各メディアにおいて、HIV 陽性の当事者の声や JaNP+の活動について取り上げていただきました。下記以外に、取材の問い合わせがあったものの放送・掲載等に至らなかったケースが数件あります。

日付	媒体名
2014 年 5 月 23 日	日本テレビ報道部　HIV 郵送検査について電話取材
2014 年 5 月 23 日	雑誌「週刊現代」安倍昭恵さんのエイズへの取り組みについて電話取材
2014 年 10 月 20 日	テレビ朝日「ＴＶタックル」VTR 取材・スタジオ出演
2014 年 11 月 12 日	雑誌「ビッグイシュー」Futures Japan 調査結果について対面取材
2014 年 11 月 18 日	雑誌「週刊現代」HIV 感染者による婦女暴行事件について電話取材
2014 年 12 月 5 日	「読売新聞」対面取材
2015 年 4 月 15 日	雑誌「アイユ」対面取材

アドボカシー

JaNP+では、HIV 陽性者の権利擁護と行政等への参加・意見反映といった観点から、HIV 陽性者のエイズ対策へのより広範な関与（GIPA：Greater Involvement of PLWHA）を活動の柱としています。

広い意味では、ジャンププラスの活動全体がアドボカシーにつながるものですが、ここでは特に、政府および行政への働きかけや協働についてご報告します。

要望書の提出、署名等

厚生労働大臣、同健康局および疾病対策課長に対する「コミュニティセンターakta を存続し、同センターを中心とした男性同性間の性的接触による HIV 感染予防の啓発普及を継続することを求める請願の署名」に賛同し、署名しました。また、「性的指向および性自認等により困難を抱えている当事者等に対する法整備のための全国連合会」（通称：LGBT 等法整備のための全国連合会）に賛同し、署名しました。

今後も、Futures Japan の調査結果など HIV 陽性者の最新の状況を踏まえ、当事者の立場からの要望を行っていく予定です。

その他委員等

代表理事の高久が東京都エイズ専門家委員および東京都エイズ啓発ポスター審査員を務めました。

広報・事務局ほか

ニュースレターの発行

ニュースレター第 21 号～第 24 号を制作、発行しました。

ニュースレターは 5000 部を発行し、全国のエイズ治療拠点や NGO、各種会員等に広く送付しています。また、WEB サイト上でも読むことができます。

2014 年度は、企業による広告掲載のほか、新たに公益財団法人エイズ予防財団の助成を受けることができ、HIV 陽性者とその周囲の方々に向けた情報誌として内容の見直しを行いつつ、発行を継続していきます。

WEBサイトの運営

おもに JaNP+の活動についてお知らせするオフィシャルサイトを適宜更新しています。

事務局運営

事務局では、外部との窓口対応のほか、各プロジェクトにおける印刷物や資料の発送、イベントの会場手配や備品などの準備、アンケート集計、事務所の管理、会計、NPO 法人関連の事務手続き等を行いました。

寄付・助成

2014 年度も多くの企業や団体、個人の皆様より寄付および助成をいただきました。おかげさまで、本書でご報告させていただきましたような活動を継続、前進させることができます。あらためまして、ご支援をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

寄付
ヴィーブヘルスケア株式会社
MSD 株式会社
中外製薬株式会社
株式会社アルバコーポレーション

※個人の方からのご寄付については、プライバシー保護のためお名前の掲載を控えさせていただきます。

助成（2015 年度実施分）	対象プログラム
子どもの未来支援委員会	HIV 陽性者による HIV 陽性者のための 居場所づくり事業
平成 27 年度　エイズ予防財団助成事業	エイズ患者・HIV 感染者向け情報誌発行事業